

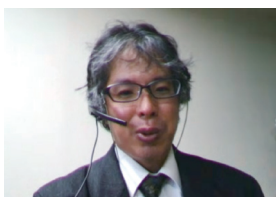
令和5年度林木育種成果発表会を開催

令和6年2月1日(木)、令和5年度林木育種成果発表会を開催しました。今年度もオンラインでの開催としたところ、国、都道府県、民間企業や研究所等から、229名の方の申込みがありました。

発表会は、京都大学大学院農学研究科森林科学専攻の小野田雄介教授から、「樹木の成長解析と林木育種への応用」と題した特別講演、また、神奈川県自然環境保全センター研究企画部研究連携課の齋藤央嗣主任研究員から、「神奈川県の花粉症対策と林木育種の取組」と題した特別報告をそれぞれいただきました。



京都大学大学院農学研究科 小野田教授



神奈川県自然環境保全センター 齋藤主任研究員

特別講演の小野田教授からは、樹木の成長速度の違いを理解するための解析フレームワークとその実用例から若木と成木の空間利用効率には相関が見られ、若木の段階で、適切に空間利用効率を評価することは、若齢選抜において重要だと思われる等のお話がありました。

また、特別報告の齋藤主任研究員からは、花粉症対策品種の普及に向けて無花粉スギ「田原1号」を選抜したこと、ヒノキ林から無花粉ヒノキを全国で初めて発見し「丹沢 森のミラ

イ」を選抜し品種登録を行い、苗木生産を開始したことなど神奈川県の林木育種の取組についてご紹介いただきました。

続いて、林木育種センター・森林バイオ研究センター・育種場の研究者から、次の6課題について発表しました。

○令和5年度の品種開発

育種部 育種第一課 育種調査役 大平 峰子

○スギにおけるエリートツリー等の原種増産技術の開発

育種部 育種第二課 課長 田村 明

○関西育種場におけるヒノキサシ木品種開発に向けた取組

関西育種場 育種課 課長 磯田 圭哉

○九州地方におけるマツノザイセンチュウ抵抗性育種の取組

九州育種場 育種課 育種研究室

育種研究室長 松永 孝治

○絶滅危惧種オガサワラグワ自生地の更新実生の種・雑種判別－外来種シマグワ駆除に向けた小笠原支庁との取組－

遺伝資源部 保存評価課 特性評価研究室

主任研究員 玉城 聡

○ゲノム編集による無花粉スギの開発とその展望

森林バイオ研究センター 森林バイオ研究室

主任研究員 七里 吉彦

発表後の質疑応答では、スギの増殖における管穂の利用、前方選抜された初期成長に優れた第二世代品種名の付け方、カメムシの防除方法についてなど多くの質問をいただきました。

今日、林業の成長産業化、地球温暖化対策、花粉発生源対策などについて、林木育種に対する社会的ニーズが益々高まっています。講師の先生方やご参加いただいた皆様からのご意見、ご要望等も踏まえながら、さらに研究開発を進めて行く考えです。

(企画部 育種企画課 福山 友博)

表紙タイトル写真

林木育種センター内温室にて、オガサワラグワの生息域外保存の様子。



林木育種情報 No. 45

令和6年3月29日発行

国立研究開発法人 森林研究・整備機構

森林総合研究所林木育種センター

〒319-1301 茨城県日立市十王町伊師 3809-1

TEL: 0294-39-7000 (代)

FAX: 0294-39-7306

ホームページ <https://www.ffpri.affrc.go.jp/ftbc/index.html>